



# 余土地区まちづくり通信Vol121

令和3年3月1日発行

〒790-0044松山市余戸東4-4-34

☎090-8979-4101

HP:www.yodo-machikyou-net

メール：yodom4010@gmail.com

## ゴーヤ・朝顔の種の配布について

余土地区まちづくり協議会では、毎年「ゴーヤの苗」の無料配布を行ってきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、「ゴーヤ・朝顔」の種を下記の日程で配布することとなりましたのでお知らせします。

**配布期間：令和3年4月1日（木）～4月7日（水）**

※各家庭1セットに限らせていただきます。

※なくなり次第打ち切りとさせていただきます。

**配布時間：9：00～12：00**

**配布場所：余土公民館 正面玄関前**

## ◇第3回余土検定 ものしり博士認定式 開催！！◇

令和2年12月13日（日）に実施しました「第3回余土検定ものしり博士試験」の合格者に「余土ものしり博士認定証」を授与する認定式が2月7日（日）に行われました。今回の試験には、成人の部に9名、小学生の部に1名が受験されました。ものしり博士の認定は、90点（子ども45点）以上は1級、80点（子どもは40点）以上は2級、70点（子どもは35点）以上は3級、60点（子どもは30点）以上は4級、50点（子どもは25点）以上は5級の5段階に分かれています。

今回の検定試験の結果、成人の部では5名、小学生の部では1名の6名が、5級以上の「余土検定ものしり博士」に認定されました。また、成人の部では100点満点の方が2人誕生しました。

認定式では、今田会長から6名の皆さんに「余土検定ものしり博士認定証」の授与があったのち、今回の「余土検定試験」の試験問題の解説があり、認定式は終了しました。



## 各地区・団体からの情報コーナー

### 国道56号線松山中央公園入口交差点通学路安全対策工事

余土中学校の通学路となっている国道56号線松山中央公園入口交差点は、横断する生徒と右左折する自動車との接触をさけるため、毎朝、教職員やPTA役員、地域の方々が安全確保のため見守り活動を行っていますが、この交差点の通学路安全対策工事が2月に行われました。

今回の安全対策工事は、

- ①松山市道余土142号から国道56号線に左折部分に減速導流帯（ゼブラ）の設置
- ②余土中学校側からローズハウス側に通行する横断歩道表示の追加
- ③国道56号線から松山市道余土142号へ左折部分に車線分離標と導流帯の設置
- ④交差点中央部に右折導流路の設置

が行われ、通行する自動車運転手に対する歩行者注意喚起が強化されました。

この交差点を通行される皆さんも、これらの標識等に従って通行され、交通事故のない交差点になりますようご協力をお願いいたします。



## 余土小学校 創立130周年記念事業 実施

～やさしく かしく たくましく～つなぐ一粒米の心

余土小学校は、明治23年（1890年）に余土尋常小学校として始まり、今年（2020年）は創立130周年にあたることから、「創立130周年記念を記念する日」の事業を2月20日（土）に実施しました。

コロナ禍での開催となったことから、来賓を招かないなど感染拡大防止対策を講じての開催となりました。

当日は、春を思わせる暖かい絶好の日和となり、1校時に参観授業を行った後、児童は運動場に出て、「記念集会」を行いました。記念集会は児童が主体となって運営（司会等）を行い、メインイベントとして「タイムカプセル」を埋設しました。このカプセルは20年後の2040年5月5日（土）に開封することになっています。この後、児童は教室に戻り、「思い出づくり」事業として、全校児童による「じゃんけん大会」が行われました。まず、予選として校内放送を利用して実行委員の皆さんとジャンケンを行いクラスチャンピオンが選出されました。2次予選は、クラスチャンピオンが放送室に集まり、学年ごとにクラスチャンピオンがジャンケンをして学年チャンピオンが選出されました。最後は、各学年チャンピオン6人によるジャンケン大会が行われ、いきなり5年生学年チャンピオンが1人勝ちとなり、余土小学校チャンピオンが決定しました。そのあと、残った5人で2、3位を選ぶジャンケンを行った結果、1年生と6年生の学年チャンピオンが勝ち残りジャンケンをした結果、1年生学年チャンピオンが勝ち、2位、3位は6年生学年チャンピオンとなりました。最後に、表彰式が行われ、それぞれ金メダル、銀メダル、銅メダルを受賞しました。

「タイムカプセル」が埋設された場所には、「未来へつなぐ」と記された石碑が置かれています。

この「未来へつなぐ」という思いを余土小学校中川祐二校長が余土小だよりの「てひきの松」特別号に書かれている文章をご紹介します。

2月20日現在の児童数は798名、学級数は32（内特別支援学級8）、教職員数56名です。また、明治23年（1890年）に余土尋常小学校として始まり、130年の歴史を刻む余土小学校の卒業生は、総勢13,680名（本年度卒業生を含む）です。

先日、1年生の児童が校長室にやってきて、いくつかインタビューをしてくれました。その一つに「余土小学校で、一番大事な言葉は何ですか」と問われ、迷わず「やさしく、かしく、たくましい」という校訓を答えました。余土小学校は、余土の偉人、森盲天外の教え「一粒米（一粒の米）」の精神を継承しています。「一粒の米」を「一人の人」とたとえ、一人一人のかけがえのない命を大事にすることが一番に、「やさしく、かしく、たくましい」余土っ子が毎年巣立っていることが誇りであります。

新型コロナウイルス感染症の影響で、本日の記念集会もできるかどうか、分かりませんでした。実行委員の皆様や運営委員の児童のおかげで、無事行うことができました。そして、メインイベントであったタイムカプセルも埋めることができました。激動の令和2年度を、この余土小学校で過ごした余土っ子や教職員が、それぞれ20年後（2040年）にどのように成長、深化しているか、みんなが元気に会えることを心より願っています。

時は止まることなく、これからも刻々と刻まれていくでしょう。それとともに社会は、これまで以上に大きく変化していくはずです。「つなぐ」をキーワードにスタートした130年目の令和2年度。いつの時代も「ひと」がつながらなければ何も生まれません。この節目の1年は、このことを今まで以上に感じる年となりました。これからも余土小学校に関わる全ての「ひと」が余土校区に脈々と流れる伝統を継承しつつ、明るい未来を切り拓く中で、余土小学校が「笑顔つなぐ」素敵な学校であり続けることを信じています。



## 《余土小学校の歴史》



明治6年(1873年)の学制により市坪村に「青木(あおき)小学校」、保免村に「保泉(ほせん)小学校」、余戸村に「曙(あけぼの)小学校」が開校した。その後、明治19年(1886年)7月に学区改正により市坪村、保免村、余戸村、東西垣生村の5ヶ村で一学区となり余戸(現在の余戸中分館の位置)に出合小学校が開校したが、明治20年(1887年)4月に改正小学校令により余戸尋常小学校と垣生簡易小学校が設置された。そして、明治23年(1890年)町村制実施に伴い、市坪村、保免村、余戸村の三村が合併し余土村となったことから、同年5月に余土村を校区とする余土尋常小学校が創立され、現在の余土小学校の始まりとなった。しかし、新しい学校の建設場所の問題で約10年間もめ、やっと森盲天外が村長になって明治34年(1901年)4月に現在地に小学校が建設されました。また同時に高等部が併設され学校は余土尋常高等小学校となった。その後、大正9年(1920年)4月には余土尋常高等小学校が愛媛師範学校代用付属小学校に認定されたが、その後、昭和10年(1935年)3月に愛媛師範学校代用付属小学校は廃止となった。昭和16年(1941年)には国民学校令により余土国民学校に改称されたが、終戦後、昭和22年(1947年)4月に温泉郡余土村立余土小学校に、また、昭和29年(1954年)10月に松山市との合併により松山市立余土小学校に改称された。しかし、余土小学校は市坪、保免、余戸全域が通学地域でしたが、昭和51年(1976年)4月に市坪地区からの通学児童は、「椿小学校」へ分離され、また、平成元年(1986年)4月に余戸中と余戸西地区からの通学児童は、「さくら小学校」へ分離され、現在の通学地域は、保免、余戸東、余戸南地区となりました。



## 余土公民館だより

### 令和3年(第43回)余土地区総合運動会 令和4年に延期！！

毎年5月に開催しています「余土地区総合運動会」は、令和2年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から令和3年も行なわず、令和4年に延期することとなりました。

この総合運動会は、余土地区の最大のイベントであることから、なんとか開催出来る方策を検討してまいりました。2月18日(木)に開催しました「公民館分館長・体育部長合同会議」や2月25日(木)に開催しました「実行委員会」で協議しましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、本年5月に開催する予定の運動会は行わず、令和4年に延期することにしました。

令和4年5月には、余土地区の多くの皆さんが参加する総合運動会が開催出来るよう、一刻も早く新型コロナウイルスが終息することを待ち望んでいます。

### 「余土公民館利用団体作品発表会」開催！！

今年度の総合文化祭は新型コロナウイルス感染拡大により中止となったことから、公民館利用団体の作品発表会を企画したところ、ちくちく会(代表：金房和美さん)、三色すみれ(代表：松岡和子さん)、余土公民館俳句教室(代表：田村令子さん)、フラワーサークルAtelier K(代表：松岡紀代子さん)の4団体から申し込みがあり、2月1日(月)～2月7日(日)までの1週間、小会議室で作品発表会を開催しました。

ちくちく会は、毎月第2・4水曜日に公民館で着物のリメイクを楽しんでいる会で、今回は、着物を洋服や手提げ袋などにリメイクした作品が展示されていました。

三色すみれは、毎月第2・4金曜日に公民館で「赤青黄」の三色の絵の具で身近にある雑草、野の花、花野菜、魚等の水彩画を描かれています。今回は、練習日に書かれた花や野菜、魚などの水彩画のほか、稽古に使われている絵具セットなども展示されていました。

余土公民館俳句教室は、毎月第2金曜日に公民館で俳句を楽しんでいる方々の会で、今回は会員が詠まれた俳句を書いた短冊を展示されていました。

フラワーサークルAtelier Kは、毎月主に第2・4木曜日に生花とプリザーブドフラワーの作品作りを楽しんでいる会で、日頃の練習の成果の発表の場として生花やプリザーブドフラワーを展示されていました。

今回の作品発表会は、1日のみの開催ではなく、開催日を1週間と長くしたことから、より多くの方々が鑑賞に訪れていました。



## 「第3回余土検定ものしり博士認定試験問題」から

- 伊予鉄余戸駅は、元々は南予鉄道が開業し余戸駅が設置され、その後、伊予鉄道に併合され現在に至っています。さて、南予鉄道が開業し余戸駅が設置されたのはいつ？  
1 明治5年      2 明治29年      3 大正5年      4 昭和5年
- 第6代余土村村長に就するとともに愛媛県町村会長に選ばれ、また、大正10年に地主と小作農の協同組合「余土村自作農奨励会」を組織して自作農創設維持と地主小作者間の調停に努めた人は誰？  
1 森恒太郎      2 鶴本房五郎      3 池内銀蕩      4 森千枝松
- 大正11年10月に愛媛師範学校代用附属小学校になった余土小学校に着任した土居勇夫は、子弟の教育と農作指導につとめ、ある研究が認められて宣仁親王から金一封を賜与されました。さて、その研究とは何？  
1 稲二期作      2 害虫駆除      3 土壌の改良      4 農水路の改修
- 昭和2年に愛媛県師範学校代用附属余土小学校校長として赴任した村上万寿男は、独特な教育手法で全国から注目されました。さて、どのような教育だったのでしょうか？  
1 郷土教育      2 自然教育      3 体験教育      4 野外教育
- 出合橋のたもとに水原秋桜子の「樗さけり古郷波郷の邑かすむ」の句碑がありますが、これは水原秋桜子が松山に来た時に弟子の五十崎古郷と石田波郷の生地を望んで詠んだ句です。さて、この句を詠んだ場所は？  
1 松山城      2 石手川松並木      3 石手寺裏山      4 興居島
- 三島大明神社の境内に余土村の最後の村長になった森千枝松翁の頌徳碑が昭和51年にあることを記念に建之されました。さて、記念となったこととは何？  
1 米寿      2 勲五等瑞宝章受章      3 名誉町民      4 愛媛県知事表彰受賞
- 村長になった森恒太郎は、村議会での話し合いはいろいろを囲んで和気あいあいとした雰囲気の中で進め、村全体が一つの家族としての共同体であるという意識付けをしましたが、この会議は何と言われたのでしょうか？  
1 いろいろ会議      2 炬燵会議      3 お茶の間会議      4 井戸端会議
- 森恒太郎は、村長になって4か月後の6月に、隣の垣生村との間で明治18年以来続いていたある井堰の水争い問題についての話し合いを行い、ついに了解点に達し覚書を交換して十数年来の水争いに終止符をうつことができました。さて、この水争いが続いていた堰は何？  
1 水小屋水門堰      2 宝井堰      3 木屋元堰      4 蔵之町堰
- 盲天外は、大正12年11月に道後湯之町に青年養成塾を創設し、全国から盲天外を慕う青年たちが集まり、師と起居を共にしながら社会奉仕を学びましたが、その塾の名前は？  
1 放生園      2 道後青年塾      3 天心園      4 一粒米塾
- 江戸時代末期の嘉永3年（1850年）の当時の市坪、保免、東余戸、西余戸村を合わせた人口は何人？  
1 997人      2 1,080人      3 1,447人      4 2,108人
- 和泉と保免の境の蔵之町埋樋水門から保免～余戸東～余戸中～余戸西へと流れる天王川の水源の川は？  
1 傍示川      2 泉川      3 内川      4 小野川
- 余戸西4丁目と5丁目の境を北へ流れ、その起点が昔は突分ヶ堰であったと言われる川の名前は？  
1 喧嘩川      2 吉田川      3 天王川      4 洗地川
- 市坪地区の通学児童が余土小学校から椿小学校に分離したのは、昭和51年4月からですが、市坪地区の余土中学校通学生徒が椿中学校に分離したのはいつ？  
1 昭和51年      2 昭和56年      3 昭和61年      4 平成3年
- 余戸中・西地区の余土小学校への通学児童がさくら小学校に分離したのはいつ？  
1 昭和51年      2 昭和61年      3 平成元年      4 平成5年
- 伊予鉄余戸駅がバリアフリーに対応したリニューアル駅舎が完成したのはいつ？  
1 平成25年      2 平成27年      3 平成29年      4 平成30年

